

外部第三者評価結果報告書

1 外部第三者評価の実施体制

(1) 事務局の構成

区 分	所 属	職 名	氏 名
事務局長	営農支援課	課 長 副 参 事 班 長 主 任 技 師	前門 尚美 山口 悟 西田 公一 赤嶺 義人

(2) 外部第三者委員会の構成

区 分	所 属	職 名	氏 名
学識経験者 消費者兼マスコミ 先進的な農業者 若手・女性農業者 農業関係団体 民間企業	琉球大学農学部 － 指導農業士（中部） 農業青年クラブ（中部） JAおきなわ中部地区営農 振興センター (株)琉球肥料	教授 フリージャーナリスト 指導農業士 地区会長 農産部長 製造部長	内藤 重之 崎山 律子 石川 浩樹 ノーマン裕太ウエイ 国吉真也 金城保

2 外部第三者評価の実施実績

(1) 対象普及センター名

中部農業改良普及センター

(2) 外部評価の手順

時 期	実 施 事 項	場 所
平成31年 4月27日 令和元年 7月10日	評価実施センター選定（中部） 中部農業改良普及センターへの説明	県庁9階第4会議室 中部農業改良普及セン ター会議室
10月11日	第三者外部評価委員への事前説明	中部農業改良普及セン ター会議室
10月23日	現地調査（中部）	中部農業改良普及セン ター会議室等
11月～1月	評価結果取りまとめ	評価委員

(3) 外部第三者委員会の具体的な進め方と内容等

中部農業改良普及センター

時 間	進め方と内容等	説明資料名	説明者
	10月23日(水)		
09:00	現地調査 現地集合・・・中部農業改良普及センター ①若手農業者野菜栽培事例(沖縄市) ②若手農業者花き栽培事例(うるま市) ③さとうきび反収向上対策事例(うるま市) ④小ギク品質向上事例(読谷村) ⑤6次産業化事例(読谷村)	評価委員会資料	普及センター
13:30	委員の紹介		営農支援課
13:35	管内概況説明 1. 管内図 2. 管内の農業概況 3. 農業改良普及センターの業務内容 4. 普及指導活動体制 5. 普及指導活動の目標と実績 6. 課題推進のための協議会	評価委員会資料	普及センター
13:55	普及活動事例報告 1. 読谷村における法人育成支援 2. 中部地区の肉用牛成育改善の取り組み	評価委員会資料	普及センター
14:55	委員聞き取り		評価委員
16:00	委員評価内容検討		評価委員
16:45	委員評価・感想		評価委員会会長
17:00	閉会		

(4) 外部第三者評価委員会における評価された事項、問題点として指摘された事項
 ①中部農業改良普及センター

項 目	評価された事項	問題点として指摘された事項（改善策も含む）
I 普及指導計画及び課題設定について	<p>○普及指導計画及び課題設定については県の計画等との整合性がしっかりととれている。また市町村、JA、農業委員会等を含めた協議会で年度初めに普及指導計画を検討するなど関係機関・団体とも十分に調整が図られている。</p> <p>○地域農業の状況や前年度の活動評価を踏まえて普及指導計画の策定や課題設定が行われているとともに、課題ごとに具体的な成果目標が設定されている。</p> <p>○計画された資料・統計整理ができています。</p> <p>○新規就農者の増加がみられる。</p> <p>○六次産業化に向けた経営指導が実施されている。</p> <p>○各団体との連携が取れている。意見の集約をされてる取組等、すごく良い。</p> <p>○JA・農業委員会等の関係機関、団体との協力体制や人的交流。情報共有への取組が現場でつながっている</p> <p>○沖縄の“農業”の課題にオール沖縄で取り組む</p>	<p>【改善策】</p> <p>○普及計画の基本課題は、「沖縄 21 世紀農林水産業振興計画」、国が策定する「協同農業普及事業の運営指針」、及び「沖縄県協同農業普及事業の実施に関する方針」に沿って、中部地域の実情に合わせて作成しております。今後も地域の現状把握と課題設定及び関係機関の連携を強化しつつ活動を展開していきます。</p> <p>○普及活動推進会議において、関係機関へ前年度の活動成果を報告し、次に今年度の活動計画を報告・意見交換し、相互に役割を發揮しながら連携強化のもと活動を推進する体制づくりを重視しており、今後も継続していきます。</p> <p>【委員意見】</p> <p>○計画作成前の変動する社会情勢や地域農業者ニーズをさらに的確に把握し、農業普及指導のプロフェッショナルとしての深く掘り下げた計画・課題解決が必要である。</p> <p>幅広い農業者ニーズの実態把握、それに対応する具体的な計画と計画実施後の波及効果の目標設定を行っていただきたい。</p> <p>【改善策】</p> <p>○産地協議会や部会活動等のなかで、農業者や関係機関から地域の課題について情報収集し、課題解決に向けてより効果的な取組と目標設定に努めてまいります。</p> <p>【改善策】</p> <p>○推進会議や産地協議会等において、関係機関連携のもと普及活動に取り組んでおり、今後も連携強化を図りながら継続していきます。</p> <p>【改善策】</p> <p>○関係機関との連携について、評価していただきありがとうございます。普及指導計画において関係機関との連携調整をプログラムし、組織的に課題に取り組めるようにしております。</p> <p>○調査研究発表会、普及活動実践発表会の他、センター所長会議、農業革新支援専門員を主軸とした各担当</p>

<p>ためにも5カ所の普及センターの意見交換・情報交換の質の向上が求められるのでは。</p>	<p>者会議や研修会などを開催しており、今後もセンター同士での意見交換・情報共有に取り組み、より一層の連携を図っていきます。</p>
--	--

項 目	評価された事項	問題点として指摘された事項（改善策も含む）
<p>II 組織的、継続的な活動について</p>	<p>○新任職員の研修だけでなく、全普及指導員を対象とした研修が毎月実施されており、資質向上の取り組みがなされている。 ○指導農業士を新規就農講座の講師とするなど普及協力員等の有識者が有効に活用されている。</p>	<p>【委員意見】 ○組織的かつ継続的な活動体制になるよう努力されているが、普及指導員の人員が限られている上に異動も激しく、適材適所の普及活動ができていないのか疑問である。 農業を取り巻く環境が厳しさを増しており、農業経営も多様化する中で、普及指導に対するニーズも多様化しており、普及指導員の人員確保が不可欠である。 【改善策】 ○普及指導員の資質向上については計画的に取り組んでいます。今後はGAP、スマート農業の分野について強化して参ります。 ○新規就農者の育成について農業士を積極的に活用しており、受講者から好評を得ています。引き続き、市町村等関係機関へも呼びかけて効果的な担い手育成や、農業に関する提言等、農業士が役割をさらに発揮できるよう努めます。 ○職員の定数が削減される中、普及指導員に求められる業務が多様化し、対応に苦慮している状況です。業務の見直しを含め、効果的・効率的な活動体制づくりと職員の定数確保に努めています。</p> <p>【委員意見】 ○Webサイトが1年以上更新されていない。 Webサイトを適時に更新するとともに、管内の主要作物の栽培ごよみ等を掲載してはどうか。 【改善策】 ○弊所HPについて適宜更新するよう改善するとともに掲載内容を検討し、地域の農業振興に繋がる情報や普及センターが実施する講座等の開催情報等を適宜掲載し、情報発信に努めます。 栽培ごよみの掲載については、国内外へ広く技術情報が流れるため、産地間競争の面から厳しいと考えております。なお、栽培に関する問い合わせには、現地及び個別の状況に応じた最新の栽培技術の提供で対応しております。</p> <p>【委員意見】 ○情報の発信をもう少し工夫できると良いかもしれない。 パンフレットや冊子一つにしても、必ずしも農</p>

業関連施設等への発信だけでなく、間接的に伝わる可能性のある施設を検討し置いてみるなど。もしくは SNS 等、今の時代に合わせてデジタルな発信もいいのではないかな。

【改善策】

○ SNS 利用等の情報発信については、他普及センターと合わせ全体で発信できる仕組みを検討したいと思います。
また、パンフレットや冊子等は直売所等へも配布しておりますが、要望に応じて対応していきたいと思います。
普及だよりについては、発行の度に HP の適時更新をしていきます。

【委員意見】

○組織スケジュール及び普及指導員の資質向上の取組が的確に実施されている。
○資質向上に OB 職員の活用がみられ有用な取組がされている。

○地域農業の減退にみる多くの課題や農業者ニーズに対応する為の、普及指導員体制（人数、質がまだまだ不十分な状態となっている。）

振興計画と農業者ニーズを的確に把握したうえで、適正な増員と組織強化を行っていただきたい。

【改善策】

○「沖縄 21 世紀農林水産業振興計画」や市町村振興計画と現場農家の意見を反映できるよう、プロジェクトチーム編成等、推進体制を工夫・見直しつつ、職員の資質向上と併せて定数確保に務めます。

【委員意見】

○実施された普及指導効果・情報発信が現場数値化されていないので評価が難しい。

普及指導効果を対象者の意見なども踏まえたうえで、普及指導前と指導後の効果を見える化していただきたい。

【改善策】

○普及計画に対する評価については活動に対する評価とその活動を行うことによって導き出される成果について評価を行っており、達成率として数値化しております。さらに総合評価により対象農家の変化や、今後の活動方針を加え、次年度へ引き継いでいきます。これら成果について「普及のあゆみ」にまとめ、その情報発信を推進会議等で行っておりますが、更なる情報共有、見える化について検討していきます。

【委員意見】

○普及センターだよりでは、せっかく農家への大きな提言事項が載っているのにどのように配布しているのでしょうか。

【改善策】

○普及だよりは、地区内の市町村農業関係課、JA おきなわ中部地区営農振興センターをはじめ管内 JA 支店、指導農業士、青年クラブ員等、地域農業リーダー

	<p>○めまぐるしく変化する日本、沖縄の農業環境、指導の質向上に向け、様々な研修が生まれ意欲が伺える。</p> <p>○農業者が今求めているもの、将来必要とするものなど、指導員として取り組むべき課題は多種多様な有識者の多角的な活用を。</p>	<p>一へ配布しております。また、HP への掲載もしております。</p> <p>【委員意見】 ○トップである県知事に沖縄農業の現状と課題、将来の展望について情熱を持って現場の声を伝えてもらい沖縄の“農業”の理念を確立してもらいたい。</p> <p>【改善策】 ○「沖縄 21 世紀ビジョン」及び「沖縄 21 世紀農林水産業振興計画」により課題、将来の展望について示しており、また新ビジョンにおいて SDGs を盛り込むことが計画されております。沖縄らしい農業の発展について課題を克服しつつ理念が内実された活動が展開できるよう努めます。</p> <p>○今後も IPM、GAP、環境保全型農業等の取組強化を行い、さらにスマート農業の現場実装に向けて、普及指導員の資質向上を組織的・体系的に実施していきます。また、各専門家との情報交換を積極的に行い、多様な技術にも対応できるよう努めていきます。</p>
--	---	---

項目	評価された事項	問題点として指摘された事項（改善策も含む）
<p>Ⅲ 普及活動成果及び評価手法について （活動成果について）</p>	<p>○計画段階から生産者や関係団体と連携して実証圃が設置され、データ分析やその活用も適切に行われている。</p> <p>○中間・年度末評価表の提出や所内全員での評価会の実施、「普及のあゆみ」の発行など、所内での進行管理や中間・年度末評価が適正に行われている。</p> <p>○実証圃で対応する農家へ実施内容の周知が的確に行われている。</p>	<p>○職務会や班会議等において、普及活動の状況を定期的に所内で共有する他、中間・年度末評価を行うと共に、普及活動報告にまとめています。</p> <p>今後、効率的、効果的な活動ができるよう努力します。</p> <p>【委員意見】 ○現在行っている実証圃については、今後、地域農業へ普及を前提に実現可能な情報をもとに実証圃を設置すべきである。実証圃については、実現可能な普及を前提に実証圃設定を行っていただきたい。</p> <p>○過去実施された有用な実証圃の効果の普及・継続報告が少ない。県が持つ多くのノウハウや有用実証データに基づいた普及が現場ニーズに即していると判断し、地域農業へ多くの実績を出した場合、普及指導員を高く評価する制度を実施して頂きたい。</p> <p>【改善策】 ○実証圃の課題設定に当たっては、農業研究センタ</p>

<p>○様々な良い取り組みをされてることを感じました。農業者との関係もすごく良さそう。あとは、その幅を広げていけると尚、いいと思います。</p> <p>○一日視察しただけではよくわからないことが多い。</p> <p>○普及センター、普及指導員との信頼関係は強い。先輩たちが築いてきた“歴史”を感じる。</p> <p>○普及指導員が信念と誇りを持ち農学者とコミュニケーションを計ること。それは“技術”にとどまらず人間力をも含む。</p>	<p>一で試験された「普及に移す技術」に取り組む他、普及指導員が地域の課題や農家の要望を踏まえ、農家の技術や経営的な評価を含め、農業革新支援専門員、農業研究センター研究員等と連携相談し、改善の方向性と仮説を立てて取り組むなど、普及を前提とした実証展示ほの設定に取り組んでおります。</p> <p>実施に当たっては、農業者との信頼関係構築の上、綿密な打合せ、意見交換を行う必要があり、関係機関が連携し、組織的に取り組んでいるところです。今後ともご協力よろしく願います。</p> <p>○農業者や関係機関と良好な関係を築きながら、今後も農業振興へ尽力していきます。ありがとうございます。</p> <p>○一日で十分ご理解頂くことができなかつたことは、説明が不十分であり、質疑時間も短かく申し訳ありませんでした。普及活動は多岐に渡っており、事前の説明会も含め、限られた時間で理解していただけるよう資料等の提供等を検討していきます。</p> <p>【委員意見】</p> <p>○この職業を選択した1人1人のモチベーションを高め支えていく環境作りが必要。</p> <p>【改善策】</p> <p>○専門員による研修や職場でのOJTを通じて、農業現場に必要な技術を的確に指導するとともに、普及現場での成功事例を多く体験させ、地域の農業を支えるための環境作りに今後も継続して努めます。</p> <p>○令和2年には沖縄県における普及事業が70周年を迎えます。先輩方が築いてきた農業者や関係機関等との信頼関係を大事に今後もつないでいけるよう努めます。</p> <p>○農業の発展は農業分野の人材だけでは解決できない時代になっています。農学者など様々な専門家とも技術・コミュニケーションを広げて、新たな知見技術を得ることで、普及指導員の資質向上に務めます。</p>
---	---

項 目	委員意見 (改善策も含む)
別紙1 (自由 意見) I 普及指導 計画 及び課題 設定 について (計画の 内容)	<p>【委員意見】 ○普及指導計画書と年度評価をはじめて見せていただいたが、課題ごとに綿密に計画され、それに対して項目ごとにきちんと評価がなされており、感服した。</p> <p>○「地域資源を活用する担い手の育成」活動について(課題設定)がすばらしいと思った。地域の諸団体関係者を網羅しながら規格外人参を加工し製品として出荷するのは画期的なことである。6次産業を目指しても個人ではなかなかできないことであり、このような課題を設定し関係組織で協力して取り組んでいることに敬意を表したい。</p> <p>【改善策】 ○県の実施方針の基本課題にそって、地域の実情に合わせて毎年、計画・活動し、その評価を行っています。その中で地域農業振興総合指導事業のように、関係機関と連携し地域を総合的に振興していくプロジェクトもあり、チームとして活動していること等が評価され、大変光栄です。</p> <p>【委員意見】 ○社会的に現就農者の高齢化や人不足が叫ばれるなか就農人口が減少し、一方では新規就農については農地を持たない若者、他業種、福祉事業者、他業種退職者の就農要求が増加し、就農形態が多様になってきています。今後の地域農業振興や増加する耕作放棄地解消を図るためには、旧来の農業者(団体～個人)のレベルアップと合わせ、普及指導対象者の範囲を広げ小さな農業から大きな農業まで効率的かつ量的に普及指導する計画・体制(人員計画含む)が望まれます。</p> <p>【改善策】 ○農業における担い手不足・多様化について、公的機関として農業振興、生産者の所得向上に向け、更なる重点課題、優先課題を検討し効率化に努めていきます。</p>

項 目	委員意見 (改善策も含む)
別紙1 (自由 意見) II 組織 的、継続 的な活動 体制 について (普及活 動につい て)	<p>【委員意見】 ○財政状況が厳しく、人員削減を迫られていることは理解できるが、自由貿易協定の締結などにより農業を取り巻く環境は厳しさを増しており、農業担い手の不足と高齢化が進展していることを考慮すると、新規就農者の確保と定着が図られなければ、地域農業の維持・存続が危ぶまれるところが少なくない。とりわけ沖縄県では新規就農者に占める新規参入者の割合が高く、農家内での技術や経営のノウハウなどの継承が困難であることから、普及活動の役割はより重要であると考えられる。なかでも中部農業改良普及センター管内では都市化・混住化が進んでおり、農業経営の形態も多様化していることから、普及指導員の人員確保と適切な配置は不可欠であると考えられる。</p> <p>【改善策】 ○限られた人員であり、新たな業務に対応する必要があることから、適切な業務整理と、重点化を図り、少ない人員で対応できる体制を整えます。</p> <p>【委員意見】 ○普及センターの職員は県の計画を実施するためによく頑張っている。しか</p>

し少ない人数で広い中部地域をまとめるには厳しいと思う。その中で4者連絡協議会（県、JA、市町村、農業委員会等）を立ち上げ率直に中部地域の農業の課題を確認し解決していくための連携が必要と思う。JAが農家との関りが大きい（農家、生産部会、青年部等）その際、JAとどう協力していくか考えてほしい。

【改善策】

○毎年度、普及推進協議会を開催し、普及課題や活動方針、普及計画について関係機関に公表し意見交換を行い合意形成を図りながら連携・協力体制のもと活動を行っています。また、今年度からJAと月1回の会議（協働マネージャーミーティング）を開催し、農業者の多様なニーズ・課題解決に向け、連携強化を図っております。

【委員意見】

○現場の多様な就農者ニーズ（+栽培技術レベル）の把握とその指導対応のため、現場活動の重視とその実績評価を行える普及指導の仕組み作りが望まれます。

【改善策】

○農業者のニーズを把握することは重要です。同時に、限られた人員の中で普及機関として特に中核的な経営体すなわち「安定的な農業の担い手育成」を基本課題として優先的に取り組んでおります。現地指導、集合研修を的確に組み合わせ効果的・効率的に担い手育成が図れるよう、今後ともご協力よろしく申し上げます。

【委員意見】

○限られた普及指導員の人員体制のなかで課題に取り組んでいることは評価します。しかしながら、GAP推進、農業6次産業化など以前には無かった課題や多岐にわたる課題が多くなっている状況に対して今後も的確に対処するために、人員増は望めないかもしれませんがこれ以上の削減がないよう要望したい。

【改善策】

○評価いただきありがとうございます。地域の農業振興が図れるよう適正な人員配置となるよう務めます。

【委員意見】

○普及指導員の資質向上に関連して、JA営農指導員の栽培技術と指導力の向上も課題であると考えます。業務連携強化を図るうえにおいても県域または地区農業改良普及センター主催の普及指導員向け研修をJAにも門戸を開く、または合同研修会の開催など取り組みを要望します。

【改善策】

○JA営農指導員の資質向上については、県の方針や役割分担を図りながら、現場において可能な項目については、合意形成を図りつつ柔軟に対応していきたいと思っております。

項 目	委員意見 (改善策も含む)
別紙 1 (自由 意見) III 普及活動 成果 及び評価 手法 について (活動成 果につい て)	<p>【委員意見】 ○現地調査では農業者との信頼関係が構築されていることがよく分かったが、プロである農業者は専門知識も技術も高い。中部農業改良普及センターに限ったことではないが、気候・風土や土壌などの条件が多様で、生産品目も多岐にわたる沖縄県では普及職員が個々の農業経営に合った栽培技術や経営指導を行い、農業者と信頼関係を築くのに時間を要すると考えられるため、頻繁な異動や専門性を無視したような異動はできるだけ避けるべきであろう。</p> <p>【改善策】 ○基本的には3年ローテーションの異動となっているが、多様な農業者ニーズや生産品目が多い状況に対し、限られた人員を効果的、効率的に活かす体制づくりを工夫していきます。</p> <p>【委員意見】 ○今回の外部第三者評価委員会での報告、質疑では十分な評価ができない部分があることは否めないため、定期的に細かい評価(様々な農業者評価やアンケート等)の積み上げや作物・農家階層別の指導内容評価を行ってほしい。</p> <p>【改善策】 ○短い時間で多くの情報伝達、協議が十分でない点がありましたが、各普及計画の中で中間評価・年度末評価において、詳細な評価を行っています。今後は、新規就農者に対する効果的な指導を図る点から的確な評価を検討していきます。</p>

項 目	委員意見 (改善策も含む)
別紙 1 (自由 意見) IV 自由意見	<p>【委員意見】 ○評価委員会では多くの事例の現地調査や現地事例発表などが盛り込まれており、大変参考になったので、これらは今後の評価会でもぜひ続けてほしい。ただしその一方で、評価項目である計画の内容や活動成果の進捗管理、評価手法等についての説明が少なく、大量の配布資料を熟読してようやく評価できたところもあった。限られた時間内での説明であるが、事前説明会や評価会の際に配布資料のどのあたりを主に参考にすればよいか指摘していただくことを提案したい。</p> <p>【改善策】 ○委員聞き取りの時間は評価項目を意識して進行すべきであったと反省しております。 今後は、評価対象期間の評価項目に沿った概略資料を用意する等、評価しやすい資料を検討します。</p> <p>【委員意見】 ○現地視察読谷村小ギク生産、さとうきびの土壌改良+かん水品種比較展示圃の取り組みを視察して感じたこと。小ギクの出荷においてAL率43%と秀品率が低いのは土づくりと大きく関わっているのではないのか直感です。防除や栽培密度の改善等重要だと思うが基本となる土壌ができていないと地力</p>

がないため根域がせまく根が張らず秀品率が低下してしまう。そのため減収になりかねない。農家に質問したら土づくりを特にしていないと言うのでびっくりした。秀品率を高めるためには土づくりが重要でしっかりした取り組みを始めるべきだと思う。そのような指導を誰がいつどこでやるのか論議していく必要があるのではないのでしょうか？

さとうきびの展示圃でも pH の土壌改良のように見受けられる。キクと同様にまずは有機物の投入により土壌をつくる。各地域の優良事例を比較検討し始めるといいと思う。JA では補助事業によりインゲンハウスが導入されているが面積は拡大しているのに、生産量・単価が上がっていない。ハウス導入により農家が儲かって所得の向上により地域の経済が成り立たないと財源が持たないのでは。単収が上がらないのはなぜか、しっかりした土づくりと平行しながら原点に戻って指導をすべきと思う。

【改善策】

○土づくりについては全ての栽培品目に共通する重要事項であり継続的に指導が必要であると認識しております。

土壌分析の取組や各種講習会において、引き続き土づくり指導を行います。ご指摘ありがとうございます。

【委員意見】

○新規就農者の若者の活躍（従来の農業では思いつかない良い発想）が見られ、多様性を尊重し伸ばすことが必要で、今後の変動の激しい農業環境に適応する術だと感じました。

実証圃など今までにない新規の取組みも重要ですが、一方で就農者が世代交代や新規参入により、従来の農業者が属人的に保持していた技術の多くが失われ、レベル低下が見られます。その現状から、県関係機関で持っている過去の有用データ（指針・事例・資料等）の再普及・活用による、従来レベルの農業技術まで引き上げることも重要です。

【改善策】

○指導農業士等ベテラン農業者の技術については、新規農業者や若手農業者へ伝達するため現地検討会、講習会を行っています。世代交代によって失われていく技術もあると思われることから今後引き続き有用な技術の伝承について取り組みます。

【委員意見】

○ここ 10 数年間でのカンキツ類の生産量及び農家数の激減に驚いています。農家の高齢化と家族への経営継承等の課題もあると考えますが、中部特産みかんの減少は非常に残念です。困難な課題であると承知していますが、圃場継承に係る外部からの新規就農等など何らかの具体的施策の検討はありませんか。

【改善策】

○柑橘生産者へアンケート調査を行い、後継者の有無、生産者の要望等把握しています。今後は、産地協議会を中心に圃地状況調査や圃地継承等について農家への意向調査等を進めていきます。

【委員意見】

○普及センターで実施した過去から現在までに至る、地域の技術課題解決に特化した展示圃や試験の結果は膨大な数にのぼると考えます。そこで得られた栽培手法や管理技術は、生産農家や指導員等に非常に有益なデータであります。冊子となっている資料も含めてインターネット上で簡易に閲覧できるような仕組みの構築を要望します。

【改善策】

○公表・公開可能な技術については関係サイトのリンクを含め、閲覧できるよう整理します。

【委員意見】

○生活者として一消費者一県民として沖縄の農業については（本来、国の農業政策）人口とともに農業人口、従業者数の減少にも関わらずその展望が見えにくい。「観光」のみならず「SDGs」沖縄のあり方を考えるとき、農業は基本となるもの。県政の中で大切な人材である農業改良普及センターの育成・充実に正面から取り組んでいただきたい。質量ともに職員の増員を計るときだと思う。

【改善策】

○昨今の農業を取り巻く環境は、ICTやSDGsなど最新技術と環境保全といったこれまでと異なった施策や技術が求められており、限られた人員を効果的、効率的に活かす体制づくりを図っていきます。

3 外部第三者評価の説明・提出資料名一覧

①事前説明会資料

沖縄県普及事業外部第三者評価実施要領
沖縄県普及事業外部第三者評価委員会設置要領
普及事業の概要と普及活動評価の仕組みについて
平成28年度普及事業外部第三者評価実施結果報告書（中部）
普及センター事前提出資料
（普及指導基本計画書（H27～31年）、普及活動計画書（H28～30年）・年度評価書（H28～30年）・普及活動実績（H28～30年）・中部地区農業改良普及推進協議会検討経過報告書（H28～30））

②中部農業改良普及センター

委員会資料

4 その他特記事項

特になし